良くあるお問い合わせ（FAQ）

Q. 技術士とはどんな資格ですか？

「技術士」は、「技術士法」に基づいて行われる国家試験（「技術士第二次試験」）に合格し、登録した人だけに与えられる称号す。国はこの称号を与えることにより、その人が科学技術に関する高度な応用能力を備えていることを認定します。
また、技術士には顧客の秘密を守る義務があり（同法第45条）、故意に顧客の秘密をもらし、または盗用した場合には、法律によって処罰されます（同法第59条）。（定義）第２条　この法律において「技術士」とは、第32条第１項の登録を受け、技術士の名称を用いて、科学技術（人文科学のみに係るものを除く。以下同じ。）に関する高等の専門的応用能力を必要とする事項についての計画、研究、設計、分析、試験、評価又はこれらに関する指導の業務（他の法律においてその業務を行うことが制限されている業務を除く）を行う者をいう。

Q. 技術士は、どんな仕事をするのですか？

技術士は科学技術のコンサルタントです。技術に関する研究・開発・設計・評価の指導や相談、製品の品質や製造工程の効率改善、プロジェクト計画の策定や管理、事故の原因調査や損害査定などを行います。

Q. 科学技術鑑定センターにどんなことを相談できますか？

技術的な鑑定であれば、何でも相談できますか？

技術的な鑑定は、何でもご相談ください。技術士21部門から、適任者が対応いたします。

技術的なことを少しはずれるような鑑定でも、相談できるのでしょうか？

技術的な分野には、純粋に技術的なことだけでなく、関連する法規の問題や、実施する企業や組織の問題、さらには属人的な問題が包含されています。そのようなことも含めてご相談いただけます。

鑑定とは少々違うようなことでも、相談できるのでしょうか？

私達は鑑定を広く捉えています。交通事故鑑定や火災鑑定、製品事故・不具合ばかりではなく、例えば技術評価、製品評価、安全性評価（リスクアセスメント）といったものも、科学技術鑑定であると考えています。

依頼内容の秘密は守られるのでしょうか？

技術士は業務に関して知り得た秘密を漏らしたり盗用することはありません。技術士でなくなった後も同様です。（技術士法　第45条技術士等の秘密保持義務、第59条　罰則）

鑑定は中立的になされるのでしょうか？

鑑定は中立、公正そして公益を害することがないよう努めます。

上手な鑑定の頼み方を教えてください？

あなたが鑑定人に何を求めているか、あなたの求める鑑定の意図あるいは目的を十分にコーディネータと鑑定人である技術士に伝えてください。そして入手可能な限り多くの資料と情報を鑑定人に提供してください。鑑定作業中に生じた疑問を鑑定人が尋ねてきた場合は協力をお願いします。

ご依頼方法

科学技術鑑定センターはコーディネータ制度を採用しています。コーディネータがクライアントとの最初の窓口になり、適切な鑑定人をご紹介いたします。コーディネータは、科学技術鑑定に関するあらゆるお問い合わせ、ご相談、ご依頼に対応いたします。ご相談内容の整理がすんでいなくとも、まずご一報下さい。鑑定業務は複数の技術士が担当し、鑑定内容をより確実なものにいたします。なお、鑑定業務の受託、報告は案件毎に主任担当技術士の責任において行います。

費用・納期

相談までの段階は。無償です。担当技術士が更に詳細な情報を頂くなどして事案の難度、規模、所要日数により変動しますので、ご協議により費用・納期をお見積りします。
技術相談（1時間以内）：1万円から 初動調査：5万円から 予備鑑定：10万円から 本鑑定：25万円から 難度・規模で加算あり

注：中立公正な鑑定を行いますので、ご依頼者のご期待とは異なる結論の調査報告、意見書、鑑定書になる場合があり得ることをあらかじめご了承お願いします。

コーディネータ：２名が担当しております。
詳細はホームページをご覧ください。

■ 電話　　03-3772-1172（コーディネーター直通）
■ e-mail　madoguchi@kantei-center.com
■ ホームページ　https://www.kantei-center.com/

公益社団法人　日本技術士会　登録
科学技術鑑定センター
〒143- 0025
東京都大田区南馬込5-17-2-101

2026.08

公益社団法人 日本技術士会

登録グループ

科学技術鑑定センター

技術問題（機械事故、火災・雷害事故、交通事故、電子・情報機器、技術評価、建設関連事故、設備環境・労働安全環境診断、保険査定、裁判案件など）の解析と鑑定は
科学技術鑑定センターにおまかせください。
ホームページ　https://www.kantei-center.com



- 技術士は技術士法に基づく国家資格を有し文部科学省に登録されています。
- 関連する複数分野の技術士が協働して問題の解決に当たります。
- 皆様の良きパートナーでありたいと願っています。
- 技術士は、報告、説明又は発表を、客観的でかつ事実に基づいた情報を用いて真実性を確保し、公正な分析と判断に基づき、託された業務を誠実に履行します（技術士倫理要綱）。これらにより中立で公正な立場であるよう努めます。